

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児） 調査結果報告書

入船の森保育園

調査日程	平成 30 年 11 月 6 日・8 日
保育観察	保育園を調査者 2 名で訪問し、全クラスの視察、生活環境の保育観察を行いました。2 歳、3 歳児とお散歩に同行し、子どもの様子・表情に触れ、保育士とのかかわり等、観察を行いました。各年齢については 1 日の保育観察、それぞれの特徴を捉えて記しています。

入船の森保育園は、0 歳から 5 歳児までの定員 40 名の小規模保育園です。園の保育室は 3 つであり、0 歳児と 1 歳児、2 歳児と 3 歳児、4 歳児と 5 歳児の異年齢クラスを設けています。調査訪問日は、行事で行った劇を「劇ごっこ」で模倣して 2 歳～5 歳児全員で練習をしている場面を観察し、年齢別での観察が区別し難い状況でしたが、見学した子どもたちの様子を記します。

<園内見学を通して子どもたちの様子>

【0 歳～5 歳児】

園舎は入船小学校の校舎内にあり、小学校の南側に増築され、北側に共有の廊下を設け、園の事務室から廊下を出て左端に小学校の厨房、右側が入船小学校となり、小学校の給食は保育園の廊下を通過して小学校に運ばれる通路となる等、特徴的な造りになっています。天候が悪い日はこの廊下が保育園児たちの遊び場となり、秋になると小学校の校庭の落ち葉がドアの隙間から季節を知らせに来ます。保育室は、4 歳（たんぼぼ）と 5 歳児（すみれ）のみつばち組、2 歳児（さくら）と 3 歳児（つくし）のことり組、0 歳児（もも）と 1 歳児（ちゅうりっぷ）のちょうちょ組で保育室割りがされており、訪問調査日は、みつばち組とことり組の保育室を 1 つに開放し、2 歳～5 歳児の子どもたちが発表会の練習をしています。異年齢で賑やかに繰り広げられ、子ども一人ひとりの年齢の区別がつかないくらいでしたが、声を上げ、保育士の指導のもと、楽しく取り組んでいます。0 歳児と 1 歳児は少し雨模様でしたが、仲良く一緒にお散歩にでかけました。校庭では、入船小学校の校庭南側に小学校の特色である「森」が悠然と木々が繁り、コンクリート作りの立派なプランターも多数並び、豊かな栽培活動が行われています。園長先生と校庭にでると、卒園児の入船小学校の子どもが「園長先生～！」と抱き着いて来て、休みの時間は小学生が園児のお世話をする等、良好な関係性がうかがえます。子どもたちは「森」の恩恵を受け、どんぐり、果物（柿、みかん、梅、ざくろ、木いちご等）のなる木、花を咲かせる木、ピオトープに親しみ、下流には蛙の卵やトンボの幼虫（ヤゴ）等が生息し、カブト虫やバッタも集まり、生態系を身近に学んでいます。子どもたちは「これがみかんの木！」と教えてくれる等、スーパーに袋詰めで売られている果物を木になっている果実として本物を見て触れ、収穫した果実は調理活動に生かす等、実体験ある食育が成されています。コンクリートのプランターの前では、年長児の子どもと職員と一緒にプランターの土の入れ替えを行い、植物の栽培に腐葉土等、各種の土を調合していました。入船の森保育園のプランターは通常のプランターの面積 5 倍、深さも 3 倍くらいあり、ダイナミックな栽培ができます。園長先生が「〇〇ちゃん、ごくろうさま」、「〇〇先生もごくろうさま」と声をかけると、子どもは一生懸命、土と格闘しながら笑顔で応えていました。

<お散歩>

【2歳児・3歳児】

調査訪問2日目は、2歳児と3歳児のことり組で一緒にお散歩に出かけました。行先は「東潮田公園」です。公園は、横浜市潮田保育園に隣接し、保育園の第2園庭として東潮田公園を活用しており、平日は地域の高齢者がゲートボールでも使用し、子どもと世代間交流があり、よく使用している公園です。出発では、子どもたちは手をつないで玄関から門へ向かい、門を出るとバス通りで車の往来がありますが、横断歩道も慣れた様子でバラバラにならずに集まって、保育士に付いて渡ります。古紙回収車が通ると、子どもたちは「バイバイ〜!」と手を振り、運転手の方も「バイバイ!」と返してくれ、地域の温かい空気が伝わります。四つ角では自転車に乗っている人に出会い、子どもたちは「こんにちは」と自然に挨拶をしています。道を進むと公園に着くと、公園の南側道路に工事車が停車していました。子どもたちは、「あっ、工事!」と目ざとく見つけて叫びます。

子どもはシャベルカーが好きで、興味を持ち、保育士から「あっちで工事をしているので、危ないからそばに行ってはいけません」とお話しがあっても、じっと見ている子どももいます。公園では、地域の親子が散歩に訪れていたり、潮田保育園と公園の間の仕切りからは保育園の園庭で遊んでいる子どもたちが見える等、明るい公園です。子どもたちは、砂遊びを行い、保育士がシャベルやコップ、お皿、ザル等を持参し、子どもたちは思い思いに手に取り、砂のお山づくりを始めました。子どもが、「お山、見に来て〜」と調査者を呼びに来てくれます。「上手にできたね〜」と言うと、今度はお砂のケーキを作って持ってきてくれます。「食べて!」とうれしそうにお皿を差し出し、「あ〜おいしいね」と言うともたまた、もっとたくさんケーキを作ってくれました。保育士が見守る中、入船の森保育園の子どもたちは楽しくのびのびと、思い思いに創造豊かに遊んでいます。園に戻るとおいしい食事が待っていました。